

学校マネジメントプラン計画書

1 学校マネジメントプランの策定期間

令和3年 ～ 令和5年（3年間）

今年度は 3 年目

2 目指す生徒像

「ものづくりは人づくり」を教育活動の基本姿勢とし、「ものをつくる喜び」を通して「科学を探究する心・技術者としての倫理観」を育成する。また、ものづくりと最先端の技術（AIやIoTなど）とを組み合わせた幅広いものづくりを学ぶために、ヒューマンスキルを高め、好奇心・探求心が豊かな生徒を育成する。これらを基盤として、技術を学び続け、複雑化・多様化する社会課題に向き合い、専門性を備えたエンジニアの素地を養う。

☆

3 中期経営目標と中期行動計画

「目指す学校像」の実現をより確かなものとするため、中期経営目標と中期行動計画を策定する。

中期経営目標	中期行動計画
1. これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善に向けた取組を活性化していく。	(1) 高度IT社会におけるSDGsを意識した工業教育の改善・充実を図る。 (2) 学習内容と社会とのつながりを意識し、「何を教えるか」という知識の質・量の精選を図る。 (3) 「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視し、生徒が主体的に考え、他者と協働し探求心を深める授業の展開を図る。
2. キャリア教育の観点から職業観・勤労観を育成する教育活動を推進する。	(1) 職業を通じて未来の社会を創り上げていくという視点からインターンシップ、企業内研修、応募前見学、オープンキャンパス等への参加を推進し、主体的な職業選択能力や高い勤労意識の育成を図る。 (2) 学ぶ意義を明確にし、学ぶことと社会との接続を意識し、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を全教科で行う。 (3) ホームルーム活動の中核としてキャリア・パスポートを活用し、自己管理能力を高め、自ら設定した目標の取組状況を振り返り、自己評価を行い、メタ認知能力を高める取組を推進する。
3. ものづくり教育を通して社会に貢献できる人材を育成する。	(1) 資格・技能検定試験に積極的に取組み、知識・技能の向上を図り、自尊心と自己有用感を高める。 (2) 地域社会学校協働活動を推進し、授業やボランティア活動、部活動等学校教育活動を通じて学校と地域社会の連携・協働を広げ、社会貢献の精神を育む。 (3) 6S活動を通じて、安全衛生教育の推進を図り、安全管理意識の醸成を図る。

<p>4. インクルーシブ教育システムの理念をもとに、個々の違いを認め合いながら、共に学び生き生きと学校生活が過ごせる環境を構築する。</p>	<p>(1) 生徒授業評価・卒業生アンケートを実施し、授業の充実・改善に生かす。 (2) ユニバーサルデザインに基づく環境づくりや合理的配慮を含む特別支援教育の推進を行う。 (3) いじめの未然防止や情報モラル等への啓発を実施し、問題行動の早期発見と人権意識や規範意識の醸成に努める。</p>
---	--

4 重点目標と行動計画

重点目標	行動計画	評価指標
<p>1. これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善に向けた取組を活性化していく</p>	<p>(1) 高度IT社会におけるSDGsを意識した工業教育の改善・充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科・科目の学習が地域社会や世界における情勢や課題と適切に関連付けられ生徒一人一人が自らの課題として捉え持続可能な社会づくりにつなげて行く力を育む学びとなっているか、授業研究会や研究授業を定期的実施し改善を行う。 ・教師・生徒相互におけるICT機器やソフトウェアの効果的な活用方法について研究・共有し、全ての授業で適切に利用し教育の質的向上を図る。
	<p>(2) 学習内容と社会とのつながりを意識し、「何を教えるか」という知識の質・量の精選を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の趣旨を踏まえ不断の授業改善を図る。 ・教科等における特質に応じた見方・考え方が一層育まれるよう年間指導計画（シラバス）を策定する。
	<p>(3) 「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視し、生徒が主体的に考え、他者と協働し探求心を深める授業の展開を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のまとめの場面や課題研究等において、新たに学んだ知識や技術と既存の知識と経験により推論を立て、試行錯誤しながら問題を発見・解決する。多様な人々と考えを伝え合って合意形成を図り、自己の考えを深めて表現し、思考・判断・表現をする場面を授業で設ける。 ・学びに応じた評価法の検討・研究を進める。 ・校内・外における課題研究等の発表会、交流会等に積極的に参加し、指摘や質問から新たな着想を得ることで、改善等に向けた新たな学びへの動機付けとなる機会とする。

2. キャリア教育の観点から職業観・勤労観を育成する教育活動を推進する。	(1) 職業を通じて未来の社会を創り上げていくという視点からインターンシップ、企業内研修、応募前見学、オープンキャンパス等への参加を推進し、主体的な職業選択能力や高い勤労意識の育成を図る。	・インターンシップ、企業内研修、応募前見学、オープンキャンパス等、発達段階等に応じて適切な時期に職業理解や進学先の特色を知る機会を設け、生徒自身が主体的に進路の選択ができるよう計画的・系統的に編成する。
	(2) 学ぶ意義を明確にし、学ぶことと社会との接続を意識し、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を全教科で行う。	・各教科の科目を学ぶ意義を明確にするため、学習内容と社会や生活との関連について全開講科目の年間指導計画（シラバス）の「キャリア教育の視点」に明記し、学習意欲の喚起を図る手だてとする。
	(3) ホームルーム活動の中核としてキャリア・パスポートを活用し自己管理能力を高め、自ら設定した目標の取組状況を振り返り、自己評価を行い、メタ認知能力を高める取組を推進する。	・キャリア・パスポートを活用し、「基礎的・汎用的能力」の四能力である「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を総合的に高め、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けることができるようキャリア教育の充実を図る。
3. ものづくり教育を通して社会に貢献できる人材を育成する。	(1) 資格・技能検定試験に積極的に取組み知識・技能の向上を図り、自尊心と自己有用感を高める。	・各科において定める基準に沿って、資格試験にチャレンジし、全国平均を大きく上回る合格率をめざす。 ・教員自身の技能・技術の向上を図るための研修会等を実施する。
	(2) 地域社会学校協働活動を推進し授業やボランティア活動、部活動等学校教育活動を通じて学校と地域社会の連携・協働を広げ、社会貢献の精神を育む。	・福祉や防災など身近な地域課題について、授業や生徒会、部活動などの場を通じて触れる機会を設け、社会の一員としてどのような貢献ができるかを考えるとともに、地域と連携・協働しながら、安全・安心な地域社会づくりに向けて行動することで実践力を養う。
	(3) 6S活動を通じて、安全衛生教育の推進を図り、安全管理意識の醸成を図る。	・実習事故の件数ゼロを目指す。 (安全衛生に関する生徒の意識アンケート)
4. インクルーシブ教育システムの理念をもとに、個々の違い	(1) 生徒授業評価・卒業生アンケートを実施し、授業の充実・改善に生かす。	・生徒授業評価・卒業生アンケートの実施とPDCAサイクルによる継続的な授業改善を実施する。

<p>を認め合いながら、共に学び生き生きと学校生活が過ごせる環境を構築する。</p>	<p>(2) ユニバーサルデザインに基づく環境づくりや合理的配慮を含む特別支援教育の推進を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育コーディネータを中心とした校内組織により、入学前中学校訪問や個別相談を実施し、これらを踏まえニーズに応じた教育支援策を講じる。 ・ 必要に応じ個別指導計画を立案し、卒業後の社会生活を見据えつつ、円滑な学校生活が過ごせるよう学校全体で合理的配慮を実施する。
	<p>(3) いじめの未然防止や情報モラル等への啓発を実施し、問題行動の早期発見と人権意識や規範意識の醸成に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒いじめアンケートを実施し、早期発見・早期対応を行い、解消に向けて組織的に取り組む。 ・ インターネットやソーシャルメディア利用に起因する問題の増加を鑑み、教員向け情報セキュリティ研修と生徒向けの情報モラル教育を実施する。

〈別紙〉

重点目標	行動計画	評価指標
<p>3. ものづくり教育を通して社会に貢献できる人材を育成する</p>	<p>(1) 職業資格・技能検定試験の合格率の向上を図る。</p>	<p>科毎の数値目標</p> <p>① 機械工学科 技能検定3級普通旋盤 合格率100% 令和4年度より技能検定2級普通旋盤に挑戦 技能検定3級フライス盤 合格率80%以上 技能検定マシニングセンタ 合格率100% 技能検定機械検査 合格率80%以上 JISアーク溶接基礎級・JIS WES半自動溶接基礎級 ・TIG溶接技能検定への挑戦、合格率80%以上</p> <p>② 電気情報工学科 第1種・2種電気工事士及び各種検定試験合格率70%以上</p> <p>③ 都市工学科 難易度の高い資格試験（2級土木施工管理技術検定50%など）への合格</p> <p>④ 科学工学科 難易度の高い資格試験（ITパスポート、公害防止管理者など）に挑戦し合格</p>
	<p>(2) 各科の特色を生かしたものづくりを推進し、ものづくりコンテストを中心に、各種コンクールへ積極的に参加する。</p>	<p>① 機械工学科 高校生ものづくりコンテスト旋盤部門 各種二足歩行ロボット競技大会 KYK溶接技術コンクール マイコンカーラリー大会</p> <p>② 電気情報工学科 高校生ものづくりコンテスト電子回路・電気工事部門 マイコンカーラリー大会 若年者ものづくり競技大会 エコデンレース</p> <p>③ 都市工学科 高校生ものづくりコンテスト測量競技部門 橋梁模型コンテスト 防災啓発活動の推進</p> <p>④ 科学工学科 総務省主催 異能vation 全員参加 産業教育フェアにて幅広いものづくりへの取組</p>

※ 6S活動とは整理・整頓・清掃・清潔・しつけ（マナー）Safety（安全）の頭文字をとったものである。